

施工業者様用

〈施工説明書〉

株式会社 ウッドワン

〒738-0023
広島県廿日市市下平良1-12-1

[商品相談窓口]

☎ 0120-813-331

[受付時間] 平日8:30~17:00

[休日] 土日・祝日・GW・年末年始・夏期休暇

捨て張り工法用フローリング

このたびはウッドワンの商品をご採用いただき、誠にありがとうございます。

施工前にこの施工説明書をよくお読みいただき、安全に正しく施工されるようお願い致します。

製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害・財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」をよくお読みください。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りいただき、内容をよく理解して正しくお使いください。

安全上のご注意 安全に正しくお使いいただくために必ずお守りください



注意

施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。



禁止

- ・屋内専用。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進む原因となります。
- ・ピアノ・大型冷蔵庫等重量物の直置き禁止。
床材が破壊するおそれがありますので必ず補強対策をし、インシュレーター等を使用してください。
- ・油性・水性ワックスの使用禁止。
油性・水性ワックスはすべりやすくなる為、当社推奨の樹脂ワックスを使用してください。
- ・床下収納庫天板への単独使用禁止。
接着剤・ビスで12mm以上の捨て張り合板を張り、総厚が15mm以上になるようにしてください。
- ・根太上の直接施工の禁止。
直接根太上に施工すると強度不足のため床材が破損することがありますので、必ず根太上に厚さ12mm以上の合板を捨て張りしてください。



必ずおこなう

- ・床下換気口の設置。
湿気がこもると床材が腐朽の原因となります。
- ・開梱後は換気を行なう。
本製品はホルムアルデヒド・VOC(揮発性有機化合物)対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気を行うようにしてください。

注意!

- ・パネルの釘打ち位置注意。
パイプなどの釘打ち禁止部に釘打ちしないでください。
水漏れや故障の原因となります。
- ・適合発熱パネルの確認。
適合しない発熱パネルを使用すると荷重による破損や踏み鳴り・または事故の原因となるおそれがあります。
- ・フロアコーティングは推奨していません。
推奨ワックスをご使用ください。
(フロアコーティングは、はがれ・床鳴り等の不具合を発生させることがあります。)

※床暖房を使用する場合は、必ず床暖房施工に対応した施工方法をお守りください。

1 施工の前に確認してください。

① 開梱

梱包を開いたら数量に不足及び損傷等の問題が無いかどうかを確認してください。

当製品は木質製品です。輸送中・施工中の水漏れは厳禁です。開梱後、製品に水漏れ等の不具合があった場合には必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

また開梱後は速やかに施工してください。

② フロアーの仮並べ

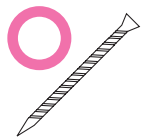
フロアーの表面には天然木を使用しているため、色や木目・溝部分に多少の違いが出る場合があります。施工前に全部の梱包を開いて色合わせをしてください。

極端な不具合などがありましたら、施工前にお買い求め店または弊社までお申し出ください。

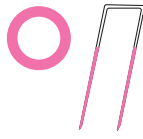
施工後のお申し出には応じかねます。

③ 工具の準備

■釘仕様

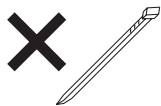


フロアーネイル
38mm以上



接着剤付きフロアー用
ステープル38mm以上

※石膏ボードを下地に使用する場合は石膏ボードの下に厚さ12mm以上の下地合板を施工し、下地合板まで届く長さの接着剤付きフロアー用ステープル(足長48mm以上)、またはフロアーネイル(長さ48mm以上)をご使用ください。



フィニッシュネイル(針釘)
ブラッドネイル(針釘)

※フィニッシュネイル・ブラッドネイル(針釘)や通常の釘類は使用しないでください。

■指定接着剤

メーカー	品番	接着剤タイプ
ウッドワン	捨て張り/根太工法用接着剤 ZX0223 (床暖房・非床暖房共用)	ウレタン樹脂系接着剤

その他推奨指定接着剤

メーカー	品番	接着剤タイプ
セメダイン(株)	フロアロック110L	変成シリコン樹脂系接着剤
コニシ(株)	ボンドKU928C-X PX280	ウレタン樹脂系接着剤 変成シリコン樹脂系接着剤
(株)オーシカ	セレクトィMS-330	変成シリコン樹脂系接着剤
(株)日本アーク	アークタイト	変成シリコン樹脂系接着剤
積水フーラー(株)	床根太・床仕上げ接着剤#55-S	変成シリコン樹脂系接着剤
アイカ工業(株)	JW-400NF/K/K4(床棟梁) SE-770(爽床)	ウレタン樹脂系接着剤 変成シリコン樹脂系接着剤

※上記の接着剤からお選びください。

※酢酸ビニル系(白ボンド)・アクリル系エマルジョンなどの水性系接着剤は使用しないでください。

2 施工手順

① 下地の確認(施工)

(1)十分な乾燥の後、施工する

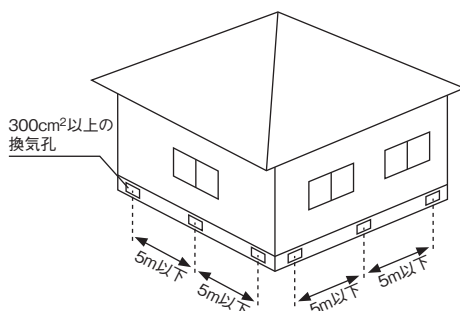
捨て張り施工の場合や、RC構造などの床下が完全防水の場合、下地材・根太・床下等がひどく濡れた状態で施工すると、施工後の床材に伸びや膨れ・変色やカビの原因となるおそれがあります。床下地や床下が雨で濡れると乾燥するまでに時間を要します。屋根工事が終わるまではビニールシート等で濡れないように保護してください。

(2)防湿のために風通しをよくする

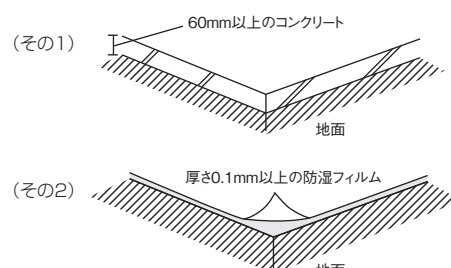
床下換気口の位置と数は建築基準法令に従ってください。

(外壁の床下部に壁長さ5m以下毎に、300cm²以上の換気孔設置)床下の湿度が高い場合は、地盤全面に厚さ60mm以上のコンクリートの打設、または厚さ0.1mm以上の防湿フィルムを全面に敷きつめる等の防湿処理をおこなってください。

一般住宅 換気孔の適正配置(参考)

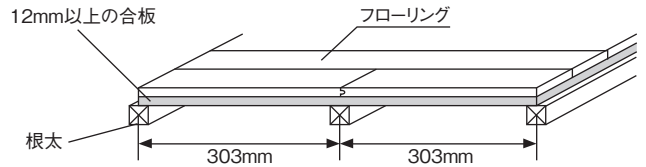


床下の湿度が高い場合の防湿方法



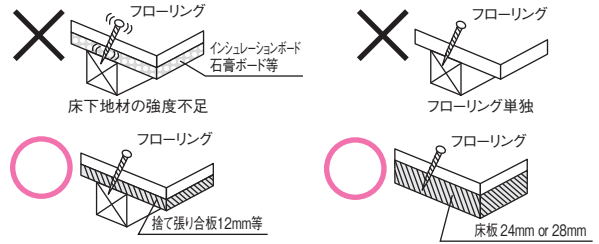
(3) 根太施工

根太には反り、ねじれの無いプレーナーがけした45mm角以上の乾燥材(含水率14%程度)を使用してください。
根太間隔は303mmピッチとしてください。



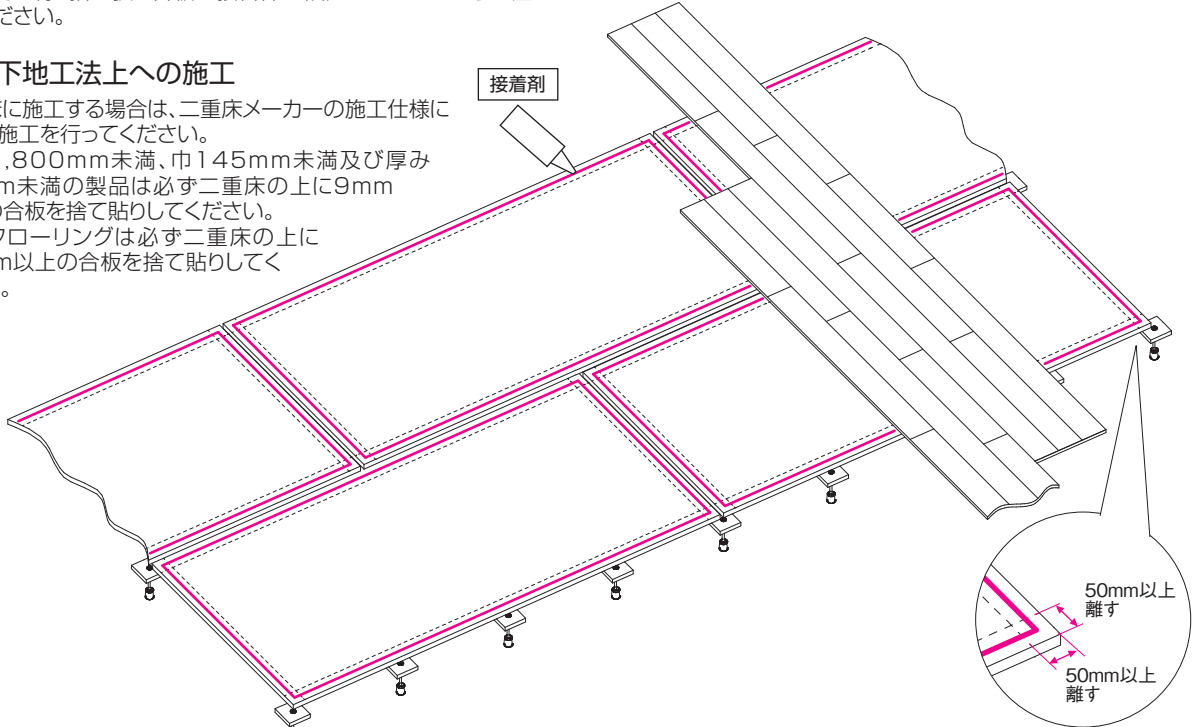
(4) 捨て張り合板

捨て張り合板専用の床材ですので、直接根太上に施工すると強度不足のため破損することがあります。
根太の上には下地合板として厚さ12mm以上、含水率14%以下のものを使用してください。
床下(コンクリート)等はコンクリート含水計で含水率10%以下であることを確認し、施工をおこなってください。含水率が高いと接着不良やフローアの反り、突き上げ、変色、カビなどが発生するおそれがあります。また根太と合板は接着剤・釘併用施工としてください。
捨て張り合板は突きつけて施工せず、2mm程度継ぎ目をあけてください。その際、捨て張り合板の接合部の段差ができないように注意してください。



(5) 二重床下地工上への施工

- ①二重床に施工する場合は、二重床メーカーの施工仕様に従って施工を行ってください。
- ②長さ1,800mm未満、巾145mm未満及び厚み12mm未満の製品は必ず二重床の上に9mm以上の合板を捨て貼りしてください。
- ③無垢フローリングは必ず二重床の上に12mm以上の合板を捨て貼りしてください。



捨て貼り合板有り(推奨施工)

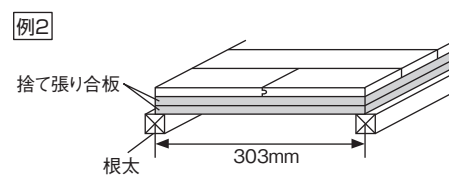
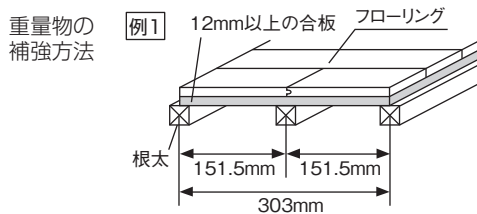
- ※1.床鳴りやたわみ防止として9mm以上の捨て貼り合板の使用をお勧めいたします。
- ※2.二重床への捨て貼り合板の施工は、パーティクルボードの長手方向に直行するように施工してください。

捨て貼り合板無し(二重床メーカー施工仕様に準ずる)

- ※1.フローアを直接二重床に施工する場合は、フローアのジョイントは、パーティクルボードの端部から必ず50mm以上離すように割り付けを行ってください。
- ※2.パーティクルボードの長手(1,820)、短手(600)の4辺には、必ず根太バンドを図のように塗布してください。
その上で、通常の施工方法に準じた位置に接着剤を(303mmピッチ、ものによっては150mmピッチに)塗布し、釘打ちを行ってください。

(6) 重量物設置の場合の補強処理

重量物を設置する場合には根太間隔を151.5mmにする(例1)か、12mm以上の下地合板を2重に捨て張りして(例2)補強してください。
※発熱パネルの耐荷重についてはパネルメーカーにお問い合わせください。



床暖房を施工する場合

小根太付き温水マットの場合

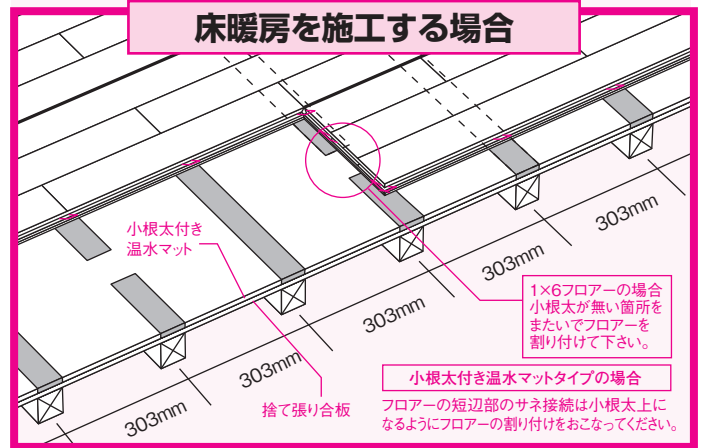
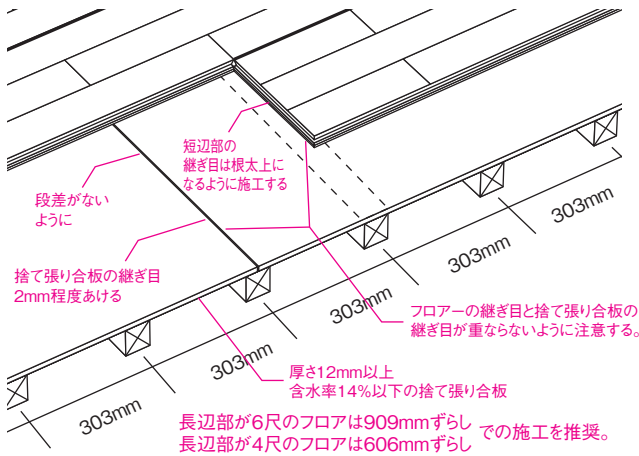
- 小根太付き温水マットとフローアの適合を確認したうえで施工をおこなってください。
- 小根太とフローアが直交するように割り付けてください。
- 小根太付き温水マットは各メーカーの施工要領に従って施工してください。

発熱パネルの場合

- 発熱パネルとフローアの適合を確認したうえで施工をおこなってください。
- 発熱パネルは各メーカーの施工要領に従って施工してください。
- 発熱パネルの周辺の副資材(合板等)との段差が1mm以下になるように仕上げてください。
- 根太間、または根太下には発熱パネルメーカーが指示する断熱材を設置してください。

② フロアーの割り付け

- フロアーの短辺部のサネ接続は根太上になるようフロアーの割り付けをおこなってください。
 - フロアーは根太と直交するように施工してください。
- ※捨て張り合板の継ぎ目とフロアーの継ぎ目が重ならないように注意してください。



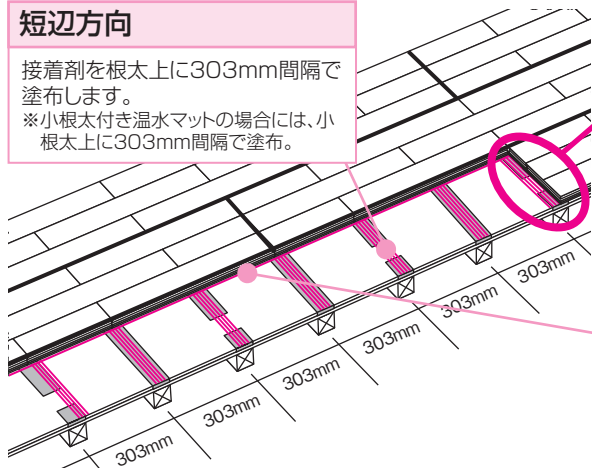
③ 接着剤の塗布方法

※非床暖房の下地に施工する場合も同じです。

接着剤カートリッジ ノズル4口タイプ使用時

短辺方向

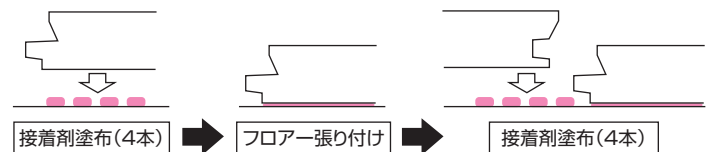
接着剤を根太上に303mm間隔で塗布します。
※小根太付き温水マットの場合には、小根太上に303mm間隔で塗布。



塗布量:約200~220g/m² カートリッジタイプ(760ml/約1kg入り)
1本で約1.3~1.5坪分の施工が可能です。

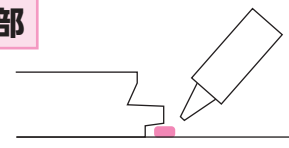
短辺部 必ずフロアー短辺の端に接着剤が付着するように塗布します。

接着剤の太さ約4mm/本が目安



長辺オスザネ下部

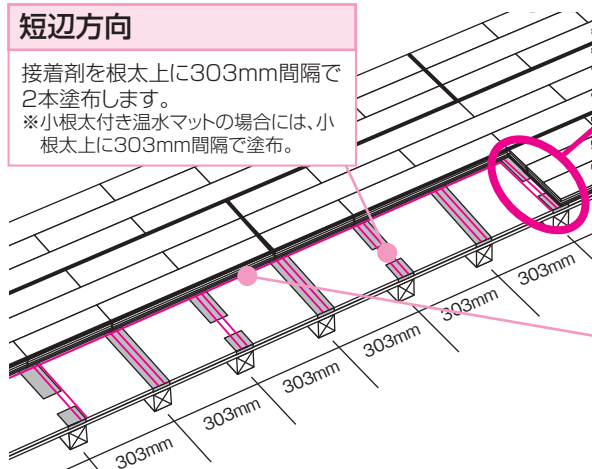
先に施工したフロアーのオスザネ下部に接着剤を塗布します。



接着剤カートリッジ ノズル1口タイプ使用時

短辺方向

接着剤を根太上に303mm間隔で2本塗布します。
※小根太付き温水マットの場合には、小根太上に303mm間隔で塗布。



塗布量:約200~220g/m² カートリッジタイプ(760ml/約1kg入り)
1本で約1.3~1.5坪分の施工が可能です。

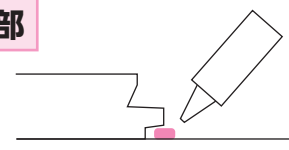
短辺部 必ずフロアー短辺の端に接着剤が付着するように塗布します。

接着剤の太さ約6mm/本が目安



長辺オスザネ下部

先に施工したフロアーのオスザネ下部に接着剤を塗布します。



⚠ 注意

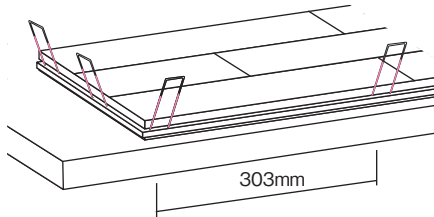
- 接着剤がフロアーの表面に付着した場合は、乾いた布や、シンナー・アルコールを染みこませた布ですばやく拭き取ってください。接着剤が硬化すると取れなくなります。また、水拭きだと接着剤が表面に残り、ムラや汚れの原因となるおそれがあります。
- 接着剤のはみ出しが無いよう適量を塗布し製品表面に接着剤が付着した場合には速やかに布などで拭き取ってください。接着剤が硬化後は除去することができなくなります。

④ 釘打ち

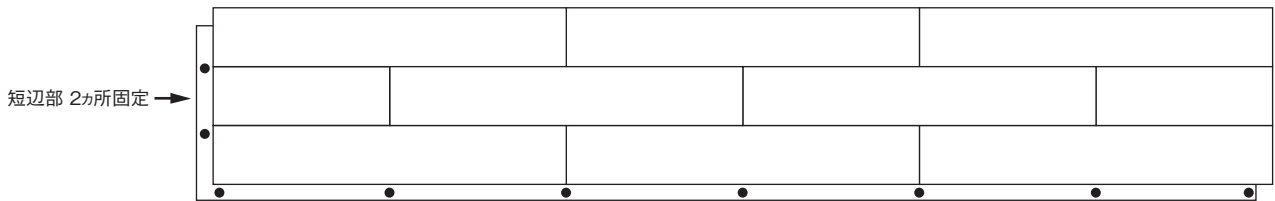
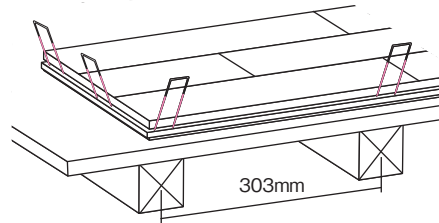
(1) 1×6フローアの場合

フローアの長辺方向303mmピッチ、短辺方向(エンドマッチ部)2カ所、弊社指定の接着剤付きフローア用ステーブルもしくは、フローアネイルを打ち込んでください。

下地材:床板24mm or 28mmの場合



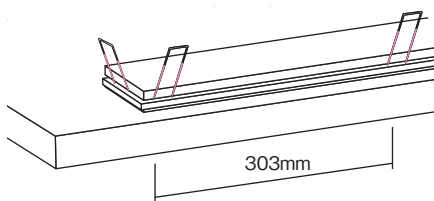
下地材:合板12mmの場合



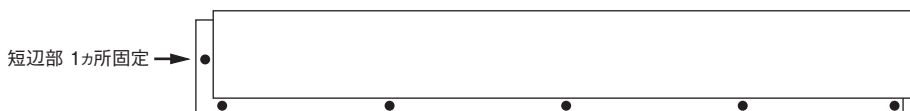
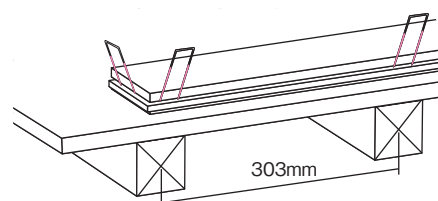
(2) 短辺部が303mm未満のフローアの場合

フローアの長辺方向303mmピッチ、短辺方向(エンドマッチ部)1カ所、弊社指定の接着剤付きフローア用ステーブルもしくは、フローアネイルを打ち込んでください。

下地材:床板24mm or 28mmの場合



下地材:合板12mmの場合

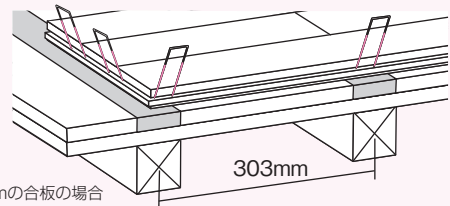


床暖房を施工する場合

※フローアの短辺、長辺のサネ接続は小根太上になることを確認した上でフローア施工を始めてください。
釘打ちはフローアを押さえ、フローアと下地をしっかりと密着させた状態で釘打ちしてください。

(1) 1×6フローアの場合

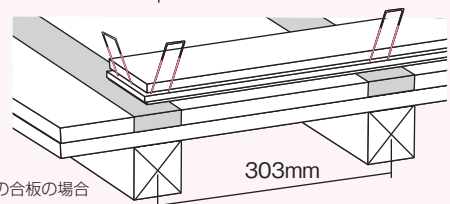
フローアの長辺方向303mmピッチ、短辺方向(エンドマッチ部)2カ所、弊社指定の接着剤付きフローア用ステーブルもしくは、フローアネイルを打ち込んでください。



イラストは下地材12mmの合板の場合

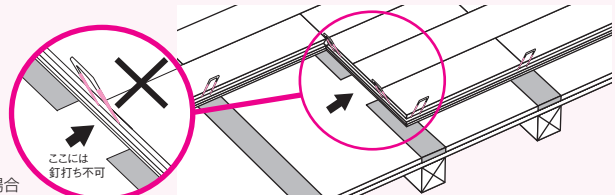
(2) 短辺が303mm未満のフローアの場合

フローアの長辺方向303mmピッチ、短辺方向(エンドマッチ部)1カ所、弊社指定の接着剤付きフローア用ステーブルもしくは、フローアネイルを打ち込んでください。



イラストは下地材12mmの合板の場合

※温水パイプ配管コーナー部の小根太が無い箇所については釘打ち厳禁です。

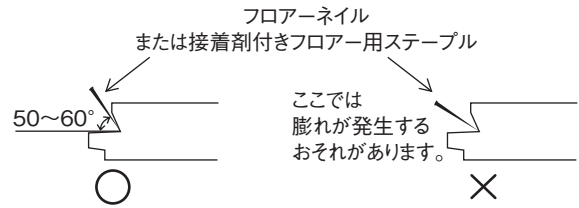


イラストは下地材12mmの合板の場合

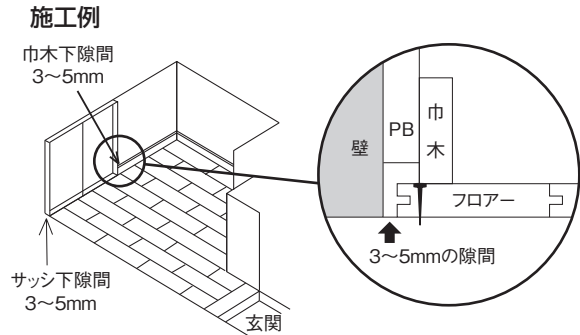
⚠ 注意

釘(接着剤付きフローアール用ステープルもしくはフローアールネイル)打ち込み時、釘の頭がフローアールにめり込まないように適正なエア圧を設定してください。釘の頭がめり込んだ場合、適正な釘保持力が確保できません。

※釘打ち角度は50~60°で打ち込んでください。これ以外では釘頭が基材を持ち上げ膨れが発生してしまうおそれがありますので特に注意してください。



※フローアール周辺の壁際およびサッシ下などには必ず3~5mmの隙間をあげてください。また端部の床材は脳天から釘打ちし、完全に固定させてください。

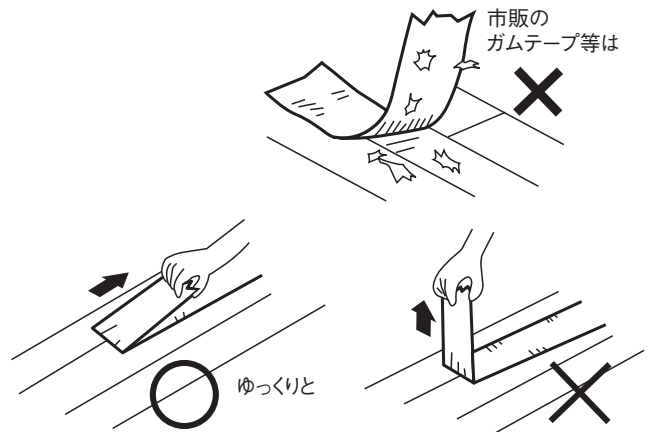


⑤ 梅雨時期の湿度対策

- 施工現場にて開梱後は養生期間をおかずに速やかに、施工してください。開梱後の製品吸湿には十分注意して施工をお願いします。

⑥ 養生

- フローアール施工後、接着剤が硬化するまではフローアールが動かないよう適正に養生してください。(養生期間: 1週間程度)
- 施工後は、木屑や砂、ごみをきれいに取り除いてダンボール、ベニヤまたは養生カバー等で隙間なくカバーしてください。市販のガムテープや粘着力の強い養生テープをご使用になりますと、塗膜の剥がれの原因になりますので、別売の養生テープ(ZY0211)をご使用ください。なお、養生に使う段ボールや、ボードは濡れていないことを確認するとともに、濡れないような配慮をお願いします。
- 養生テープを取り除く際は、テープを床面と垂直にしながら剥がすと、製品表面の塗膜剥離をおこすおそれがありますので、テープを床面と平行にしながら、ゆっくりと剥がしてください。



養生テープのはがし方

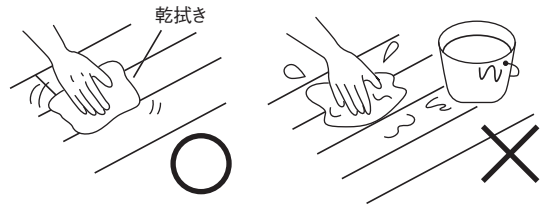
⚠ 注意

養生期間中、絶対に床暖房および暖房機器の使用は避けてください。フローアールのサネ接続部の隙間発生などの原因となるおそれがあります。

3 施工終了後

汚れ落とし

ほこり、小さな汚れを乾いた布で乾拭きしてください。水拭きを行うと長期の間に割れが発生することがありますので、避けてください。ただし、汚れのひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた雑巾を固く絞ってから拭いてください。



美装業者様におかれましては、下記の点およびワックス塗布の注意事項について十分注意して作業してください。

※フローリング表面に、水や洗剤を撒き散らさないでください。変色や、床材の変形(膨れ)の原因になります。

※ポリッシャーには柔らかいリットをご使用ください。表面のキズの原因になります。

抗ウイルス加工商品をご使用の場合、ワックスは塗布しないでください。

ワックスを塗布すると性能が十分に発揮されません。
汚れの拭き取りは適宜行ってください。

以下ワックスのご利用に関する注意事項は、**抗ウイルス加工商品 以外**をご使用の場合にお読みください。

ワックス塗布の前に

①ワックスの選定

半年に一度、ワックスによるお手入れを施してください。必ず弊社推奨のワックスをご使用ください。他のワックスは密着不良等の不具合の原因になります。



ワックスの選定につきましては、「木質床材お手入れマニュアル」3頁目をご覧ください。

https://www.woodone.co.jp/static/business/wp-content/uploads/2020/01/WD_SE_0176.pdf

※**油性ワックス・ロウワックスは絶対に使用しないでください。**
(油性ワックスの上に樹脂ワックスを塗布した場合白化することがあります)

※化学雑巾は使用しないでください。(特にワックス塗布直前・塗布後は絶対に使用しないでください)

②天気の良い日を選び、窓を開けましょう

※雨天等で、湿度が極端に高いときは避けてください

※気温が低く床材表面が5℃以下での使用はお控えください

※床暖房用フローリングのお手入れは、床暖房のスイッチを切り、フローリング表面が冷えてから行ってください。床暖房中に作業を行うと、床暖房パネルの故障、フローリング表面のヒビ割れ、変色などの原因となります。

③汚れ落とし

(イ)床面のゴミ・ホコリ等を掃除機を使用して十分に除去してください

(ロ)床用洗剤(「マイペット」、「オール床クリーナー」等)を薄めた液を雑巾に含ませ、固く絞ってから拭いてください。

※施工後の床材の表面には、汚れ・油分が付着しているので、十分に洗浄をしてください。

※洗剤を使用する場合は、予め目立たないところで試験洗いをし異常のないことを確認してください。

※アルカリ性の強い洗剤は使用しないでください。

※**洗剤を、フローリング表面に多量に撒き散らしたり、多量に塗布しないでください。**

※スプレータイプの床用洗剤の場合は、雑巾に洗剤をスプレーして拭いてください。

(ハ)水を含ませ、固く絞った雑巾で**洗剤を完全に拭き取ってください。**

※洗剤の成分が床面に残るとワックスの密着が悪くなります。

※床材の目地にも洗剤分が残らないようにきれいに拭き取ってください。

ワックスの塗布

①床が完全に乾いたら、きれいな雑巾にワックスを含ませ、木目に沿って**薄くムラ無く均一に**塗ってください。

※雑巾は汚れ落とし用とは別のものを使用してください。

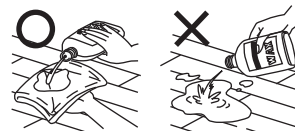
※ワックスを十分に攪拌してください。

※フローリング表面に**撒き散らして塗布せず、また塗りすぎないでください。**

※床材の目地に、樹脂ワックスが溜まらないように注意してください。

※重ね塗りの場合、**前に塗ったワックスを必ず乾かしてから塗布してください。**

②乾燥するまで、ワックスを塗ったところを歩かないでください。



ご使用において

※ワックスは床材を保護しメンテナンスが容易にできる反面、塗料に比べ柔らかい性質のためご使用において、すり傷状に見えたり、光沢がおちてくることがあります。スリッパの底面はきれいにし、また重量物や椅子などを引きずらないようご注意ください。

※水がこぼれて、そのまま放置したり濡れた足で歩くと、白化したり剥がれる原因になります。すぐに乾いた雑巾で拭き取ってください。

フリーワックス製品に関して

フリーワックス製品に関してはワックス塗布は必要ありません。汚れや薬品による汚染、変色が発生しにくく、傷がつきにくい性能を有しています。(お客様の希望によりワックス塗布は可能ですが、化粧表面はワックスの塗布性能となります)

⚠ 注意

ワックスは使用を誤ると、べついたり白化や粉化、変色、密着不良などの異常を起こす場合があります。必ず※印の注意事項を遵守してお手入れしてください。

ワックス剥離剤は製品の美観および品質をそこないます。絶対に使用しないでください。

※濃色系の床材は光沢の加減でワックスの擦り傷が目立つ場合があります。ご了承ください。

WOODONE